

環境目標： 身近なところからはじめる環境への意識の醸成

①. 取り組んだ活動内容を箇条書きで記入してください。（必須）

<地球温暖化防止・エネルギー>

活動内容
・ 掲示環境委員会の児童を中心として節電の呼びかけを行った。
・ 「はじめよう ECO生活！」エコファミリー認定事業の参加を呼びかけた。
・ 第5学年において、南極北極科学館へ見学に行き、人間の生活と環境との関わりについて学習した。

<資源循環>

活動内容
・ 給食の食べ残しや、プラスチック容器の使用の削減に取り組んだ。
・ 古紙・燃えるゴミ・燃えないゴミ等の分別に取り組んだ。
・

<みどり・生物多様性>

活動内容
・ 栽培委員会の児童が花壇の植え替えを行った。
・ とことこオーガニックの野菜、学校農園や校庭の樹木からとれた野菜や果実を学校給食に活用した。
・ 農家の方を招いて、オーガニック野菜の育て方や苦労等について話していただいた。
・ みどりのカーテンを作った。
・ 第1学年の生活科において、季節による生き物多様性を学習した。
・ P T Aと連携し、児童、教職員、P T Aが協働して除草作業を行った。

②. ①のうち最も力を入れた取り組みについて、詳しく記述してください。(必須)

<記述欄>

力を入れている環境活動

【活動名】 とことこオーガニック野菜、学校農園の活用

【ゼロカーボンシティ実現に向けた工夫】

児童にとって身近な給食から関心を広げ、環境への意識を醸成する。

【活動内容】

1 とことこオーガニックの野菜の活用

本校は、今年度とことこオーガニックの野菜を使用した給食のモデル校となっており、年間を通して定期的にとことこオーガニックの野菜を給食に使用している。給食を食べる際には、食育委員会の児童が作成した「食べレター」で食材について紹介し、関心を高めている。

2 農家の方を招いての昼食会の実施

野菜農家の方を招き、6年生の児童と一緒に給食を囲んだ。児童から有機農業の大変さや喜びについて質問が出る等、関心が高まっている様子が見られた。農家の方から有機農業について説明をしていただくことで、化学肥料や化学合成農薬を使わない地球にやさしい農法について学び、環境を大切にすることの大切さについて考えることができた。



3 学校農園や校庭の樹木からとれる野菜、果実の活用

1年生が育てたサツマイモや、特別支援学級の児童が育てた大根等、学校農園でとれた野菜を給食で使用した。「食べレター」で紹介をすることで、児童がより関心をもって給食を食べる様子が見られた。また、校庭にある樹木からとれる柚子を給食に使用した際にも全校児童に紹介し、身近な環境と食とのつながりを考えさせることができた。